即興型英語ディベート
校長のメッセージ

文部科学省後援

第4回 PDA高校生即興型英語ディベート全国大会

於：東京大学

2018年12月22日㈯・23日㈰㊗

PDA

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)

もくじ

ごあいさつ	1
青森県立青森高等学校	2
八戸聖ウルスラ学院中学・高等学校	2
秋田県立角館高等学校	2
秋田県立秋田南高等学校	3
山形県立山形東高等学校	3
栃木県立宇都宮東高等学校	3
栃木県立佐野高等学校	4
栃木県立宇都宮高等学校	4
群馬県立前橋高等学校	4
埼玉県立浦和高等学校	5
埼玉県立浦和第一女子高等学校	5
さいたま市立浦和高等学校	5
山崎学園富士見中学高等学校	6
東京都立日比谷高等学校	6
東京都立小石川中等教育学校	6
東京都立両国高等学校	7
神奈川県立柏陽高等学校	7
神奈川県立湘南高等学校	7
神奈川県立厚木高等学校	7
神奈川県立横須賀高等学校	8
神奈川県立横浜翠嵐高等学校	8
私立湘南白百合学園高等学校	8
福井県立藤島高等学校	9
長野県長野高等学校	9
長野県松本県ケ丘高等学校	9
長野県上田染谷丘高等学校	9
長野県松本深志高等学校	10
岐阜県立岐阜高等学校	10
静岡県立静岡高等学校	10
愛知県立岡崎高等学校	10
滋賀県立膳所高等学校	11
京都府立鳥羽高等学校	11
京都府立嵯峨野高等学校	11
京都市立堀川高等学校	12
大阪教育大学附属高等学校平野校舎	12
大阪府立北野高等学校	12
大阪府立豊中高等学校	12
神戸女学院高等学部	13
神戸大学附属中等教育学校	13
奈良県立奈良高等学校	13
私立東大寺学園高校	14
鳥取県立鳥取東高等学校	14
私立岡山高等学校	14
私立梅光学院高等学校	15
山口県立山口高等学校	15
福岡県立城南高等学校	15
熊本県立八代高等学校	15
宮崎県立宮崎北高等学校	16
沖縄県立球陽高等学校	16
私立創価高等学校	16
鹿児島情報高等学校	16

ごあいさつ

全国高等学校校長会 顧問(前会長) 宮本 久也
(東京都立八王子東高等学校 校長)

第４回ＰＤＡ高校生即興型英語ディベート全国大会が、東京大学を会場に全国６４校の高校生の参加によって開催されることを心からお喜び申し上げます。私が即興型英語ディベートを知ったのは今から５年前のことです。早速セミナーを実施し生徒の変容ぶりを目の当たりにしてすっかりその魅力に取りつかれ、この取り組みを全国の高校に広げるお手伝いをするようになりました。

即興型英語ディベートは、英語での発信力だけでなく、幅広い知識や論理的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などこれからの時代に求められる能力の育成に最適のプログラムです。そしてこれを他校の生徒と一緒に行うことでその効果がさらに高まります。今大会が参加する高校生の皆さんにとって即興型英語ディベートの楽しさや難しさを再確認する機会となるとともに、全国の高校生との交流の輪を広げる機会となることを心から期待しています。

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA） 代表理事 中川 智皓
(大阪府立大学 工学研究科 機械工学分野 准教授、東京大学生産技術研究所 協力研究員)

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財協会（PDA）では、グローバル社会で貢献できる人財の育成に寄与することを目的に、一手法として、即興型英語ディベートを取り扱っています。設立当初より、公教育において活用できるよう、授業でできる形式の即興型英語ディベートの推進を行っています。一般の授業においてそのまま導入可能なコンセプトで、文部科学省後援 PDA高校生即興型英語ディベート全国大会や、文部科学省・外務省後援ＰＤＡ高校生パーラメンタリーディベート世界交流大会にもつなげています。PDAでは、文部科学省事業（2013～2018年度）や教育委員会との連携を継続し、次期学習指導要領にも掲げられている新科目「論理・表現」において、提案手法の即興型英語ディベートが活用できるよう研究を進めています。本年も、全国高等学校校長会の後援を得、当全国大会を開催いたします。これまで全国800校以上に即興型英語ディベートを紹介できたことは、ひとえに全国の校長先生をはじめとする先生方のご理解・ご協力によるものです。今後の教育についてメッセージを校長先生方よりいただきましたので、本冊子にまとめさせていただきます。

青森県立
青森高等学校 校長
宍倉　慎次

メッセージ

青森県初の即興型英語ディベート交流会を主催して
３年が経ちました。当初は4校で実施していた交流会も
今年度は7校37名の高校生の参加に加え、
15名の教育関係者の参観を得て、盛会のうちに終了いたしました。
大会の運営はもとより、ジャッジ講習会を開いていただくなど、
一般社団法人パーラメンタリーディベート人財協会様には多大な
お力をいただいております。この場をお借りして御礼申し上げます。
さて、おかげさまをもちまして、本県でもディベートへの関心が
高まり、県高教研英語部会や教育委員会でもディベート大会や
教員研修会の開催に向けた動きが活発になっております。
新学習指導要領の「論理・表現」の核とも言えるディベートが
今後ともPDA様のお力でより深化していく事を願っております。

八戸聖ウルスラ学院
中学・高等学校 校長
里村　智彦

メッセージ

本校では1989年に英語科を設置し、それ以来一貫として
「グローバル人材の育成」および「英語による発信型の授業」を
理念に英語教育を進めて参りました。
英語プレゼンテーションをはじめ、これまで様々な取り組みを
行ってきましたが、この即興型英語ディベートはまさにこれまでの
本校英語教育の完成形の一つであり、これからの英語教育に
不可欠な要素であると考えます。本校では生徒たちが
楽しみながらディベートをしている姿が見られます。
論理的思考力や幅広い知識を養うことができるこの活動を、
今後も継続して行きたいと考えております。

秋田県立
角館高等学校 校長
樫尾　尚樹

メッセージ

今年度本校は、AKITA英語コミュニケーション能力強化事業
英語授業改善事業拠点校の指定を受けました。
昨年度からディベートに興味関心の高い教員やＡＬＴによる
生徒向けの研修会を行っていましたが、今年度から本格的に
授業に採り入れ、意欲ある生徒達は放課後の活動にも積極的に
参加しています。情報化・国際化が加速化するこれからの時代には、
グローバルな視点をもつ人材が求められます。
そのためにはコミュニケーション力やプレゼンテーション力に加え、
論理的な思考力や幅広い知識を基盤とした
英語での発信力が必要不可欠です。
今回のＰＤＡ全国大会では、普段の学習成果を発揮するとともに、
全国の高校生との交流を通して自分自身をより成長させ、
これからの時代をリードする人間に育つよう願っています。

秋田県立
秋田南高等学校 校長
佐藤　利正

メッセージ

2016年12月に全国高等学校文化連盟研究大会・
栃木大会に参加した。指導者研修会の英語ワークショップで
講師を務められたのが、中川智皓先生である。
その際の「ディベートはシャイな日本人にぴったりだ」という
言葉が印象に残った。ルールに従って立論・反論・再反論・総括の
役割を果たさざるを得ない状況に置かれることで、
発言することの重要性を体得することになる。
シャイな人間の多い秋田県の出身である私の心に
スーッと入ってきた。英語学習者の最大の壁は、
誤りや失敗に対する恐怖心である。
授業等でのディベート体験を通して、
自分の意見を発信する楽しさを実感する生徒を増やすことは、
これからの英語教師の使命である。

山形県立
山形東高等学校 校長
佐藤　俊一

メッセージ

英語の４技能の連携、日本語を介さない英語の即時的な
理解と反応、積極的にコミュニケーションを図ろうとする
態度の育成など英語教育の課題のほとんどはディベートを
行うことによって解決します。しかも、相手や聴衆を納得させる
論理構成力も鍛えることもできますし、
実践的な英語の語彙力も豊かにすることもできます。
いいことずくめのディベートですが、学校の授業で
あまり普及しなかったのは、事前の準備に手間がかかる、
時間がかかるというところに原因がありました。
即興型ディベートは、このネックをクリアしたいわば魔法の杖です。
皆さん、是非積極的にチャレンジして、世界に渡り合える英語による
コミュニケーション能力を身に付けましょう。

栃木県立
宇都宮東高等学校 校長
若杉　俊明

メッセージ

即興型英語ディベートでは、英語力だけではなく、
論理的な思考力、表現の瞬発力、伝えようとする誠実な姿勢など、
総合的な能力が求められます。
そしてそれを鍛錬するには、日々の努力もありますが、
最も大切なのは、「意識の高さを継続すること」なのではないかと
思います。換言すれば、課題を感じるセンサーの感度を高めておく
ということでしょうか。こうした大会に参加することで、
生徒たち自身が、日常の思考を活性化し、
視野を広げることにつながってくれることを期待します。

栃木県立
宇都宮高等学校 校長
村山　二郎

メッセージ

本校は、今年度140周年を迎える公立の男子校です。
全人教育を掲げ、長い歴史と伝統を築いてきました。
本大会に参加するのは、英語部の部員たちですが、
全国大会・世界大会の常連になった彼らの活躍や実力は、
本校の生徒たちに良い刺激になっています。
英語ディベートには、英語を駆使する楽しさに加え、
知的・社会的な難題に挑戦する面白さ、個人でなくチームで
勝ち取る喜び、人前で堂々と発言する心地良さなど
高校生を引きつける魅（魔）力があります。
その手法は、「主体的・対話的で深い学び」にも通じており、
授業でも導入されつつあります。今後の英語学習に幅と深みを
もたらすものと大いに期待しています。

栃木県立
佐野高等学校 校長
赤羽　浩

メッセージ

本校では、教育目標である「『国際人として活躍できる
真のリーダー』の育成」を踏まえ、SGHの教育活動を組織的に
展開しています。その教育活動の一環として、中高一貫教育校の
特長を生かし、中学3年生から英語ディベートを導入し、
高校1年生と2年生でも積極的に授業内で取り入れ、PDA型
ディベートにも挑戦しています。英語ディベートでは、生徒の英語力
を向上させるだけでなく、社会問題への興味・関心を引き出したり、
論理的な思考力を養ったりすることができると考えています。
学習指導要領の改訂に伴い、ディベートなどの言語活動を
中心とした英語の授業が求められていますが、今後もPDA即興
ディベートが全国的に広まることで、英語教育が更に充実・発展
していくことを願います。

群馬県立
前橋高等学校 校長
大栗　勇一

メッセージ

群馬県立前橋高等学校は、今年で創立141年目（1877年創立）を
迎えた、群馬県内一の伝統をもつ男子校です。
卒業生総数は、約3万5千名を数え、各界で活躍しています。
現在、920名の生徒が学んでいます。
校訓「質実剛健」、「気宇雄大」のもと、社会のリーダーとなる
人材の育成を目指し、学業はもとより、部活動や学校行事に
積極的に取り組んでいます。平成３０年度は、その重点目標の中で
「探究的な学習の推進」及び「グローバル教育の推進」等を掲げ、
英語ディベート等を通じたコミュニケーション能力の伸長を
図っているところです。今回の第４回PDA高校生即興型
英語ディベート全国大会については、本校は第1回より参加しており、
４回目の出場となります。全国の仲間と切磋琢磨することにより、
「前高生（まえたかせい）」にとっても学校生活の
充実につながることを期待しています。

埼玉県立
浦和高等学校 校長
小島　克也

メッセージ

世界のグローバル化が進む中、英語を介して、海外の主張を理解し、
同時に海外に対して自分の立場を堂々と論ずることのできる
人材を高校教育の場で育成したいものです。
PDAは、そのようなグローバル人材の育成に資する手法で
あることは間違いないと思います。
本校でも、すでに一部の授業で取り入れています。
教員は、生徒達の語彙の定着やクリティカルシンキング力の
向上など、英語のコミュニケーションに必要な力の伸びに
手ごたえを感じています。今年の3学期からは、
１年生の全クラスでの展開を予定しています。
全国の同じ思いの高校の皆さんととともに成長していきたいと
思っております。どうぞよろしくお願いします。

埼玉県立浦和第一
女子高等学校 校長
髙田　直芳

メッセージ

現在、高校では、「主体的・対話的で深い学び」を目指した
授業改善が大きなテーマとして掲げられています。
即興型英語ディベートはまさにこのテーマに沿った取組で、
生徒の英語力を伸ばすことはもちろん、世界の様々な課題に
対してクリティカルに考える習慣をつける上でもとても意義ある
イベントだと思います。これから世界に飛び出す若者には英語を
コミュニケーションツールとしてお互いに議論を戦わせ、
立場を超えて相手の意見に共感する力、自分の考えに
共感してもらえる力を養ってほしいと思います。
全国大会のご盛会をお祈りするとともに、
即興型英語ディベートが今後も多くの高校で実践の輪が
広がることを期待しています。

さいたま市立
浦和高等学校 校長
平川　充保

メッセージ

第4回ＰＤＡ英語ディベート大会開催おめでとうございます。
日本人の英語力の向上が社会的に求められているなか、
本校でも1～2年生で「継続的」「段階的」「即興的」に、
英語ディベートに取り組ませており、英語の運用能力はもちろん、
論理的な思考力、交渉力、プレゼンテーション力、社会問題に対する
知識、チームワークなどの様々な能力や知識の向上など、
大きな教育効果をあげています。このＰＤＡ全国大会は
そういった普段の授業の発表の場として大変貴重な目標と
させて頂いています。今後も一生懸命に取り組む生徒たちと
日本の英語教育改革のために、このような場の提供をより多くの
生徒たちにお願いできればと考えております。

東京都立
日比谷高等学校 校長
武内　彰

メッセージ

PDA関係者の皆様には日頃よりお世話になりまして
ありがとうございます。即興型英語ディベートセミナーや
大会において、生徒たちが懸命に知識や思考を巡らせ、
楽しんでいる姿を目の当たりにしてきました。
全国大会においても生徒たちがお世話になりますが、
御指導いただけることを嬉しく思います。
これからは自らの考えを論理的かつ的確に英語で発信できる
生徒たちを多く育てていくことが大切である、との認識のもとに
今後もグローバルに活躍できる生徒の育成に努めてまいります。

都立
小石川中等教育学校 校長
梅原　章司

メッセージ

本校は、東京グローバル10指定校として国際理解教育に力を
入れており、国際社会に生きる幅広い教養と豊かな感性及び高い
語学力を身につけた生徒を育成するために、生徒主体の様々な
国際交流活動を推進しています。授業では英語ディベートを導入し、
ディベート大会はじめ各種英語コンテスト等において
本校生徒の活躍がますます活性化してきました。
グローバルな視点で多面的にものごとを考えられる人材を
育成するために、ディベートは大変有効であると実感しています。
今後もDebate活動を通して、今まで以上に生徒一人一人が
社会に関心をもち、仲間と議論を深め、切磋琢磨しながら、
課題解決のための思考力・判断力・表現力を育んでほしいと
思います。

山崎学園
富士見中学高等学校 校長
板倉　清

メッセージ

第4回ＰＤＡ高校生即興型英語ディベート全国大会の開催
おめでとうございます。グローバル化、ＡＩ化により現代は
予測困難な時代と言われ、それに適応する新しい学びが求められ、
知識の量的蓄積ではなく、その知識を基にした汎用的な
資質・能力の形成が重要とされます。そのような教育環境において、
資料や原稿なしで討論する即興型英語ディベートは、
幅広い知識や視野を前提に論理的思考力、判断力、表現力を必要
とする競技であり、まさに時代に即応した教育方法と言えます。
参加者はこの競技を通し自己の知識と資質の総合力を把握し、
さらに深い学びへの意欲を強めることができるでしょう。
大会のさらなる発展をお祈り致します。

東京都立
両国高等学校 校長
鯨岡　廣隆

メッセージ

対話は新たな価値を生み出します。
このことは古来より重視されてきました。
古代ギリシャにおいてはソクラテスが、古代中国においては孔子が
その代表と言えるでしょう。産婆術という呼ばれ方もします。
現代においても対話は問題解決の最善策かもしれません。
言語は何であれ、即興型であろうとなかろうと、勝敗を
競うかどうか、こうしたことは様々な形態の違いにすぎません。
よく聞くこと、自分で考えること、相手が理解できるように伝えること、
こうした一連のプロセスを通して、参加者ともども深い学びや
奥行きのある相互理解につながっていくことを願っています。

神奈川県立
湘南高等学校 校長
稲垣　一郎

メッセージ

即興型英語ディベートの全国大会に参加されるすべての生徒の
皆さんの健闘を祈念いたします。本校生徒も、これまで即興型
ディベートの練習会や大会に参加させてもらうことによって、
他校の生徒さんたちに刺激をいただき、より素晴らしいロジックと
英語力をつけることを目標にがんばって来ました。
負ければ悔しいと思うはずです。その悔しさが伸びるばねに
なります。がんばってください。また、中川先生をはじめ、ＰＤＡの
スタッフ・ジャッジの先生方の的確な指導助言と
ご尽力に感謝申し上げます。

神奈川県立
柏陽高等学校 校長
井坂　秀一

メッセージ

ＰＤＡさんとの出会いは一昨年度であった。
以後、本校英語教育は大きく変容したことに感謝申しあげる。
職員たちはこの「即興型英語ディベート」に瞠目し、県内交流会・
首都圏大会、そして全国大会に生徒を参加させるとともに、
自らジャッジとして研鑽を続けている。昨年度からは、
この取組みを授業に導入（各学年３～４回）し、今年度末には
学校行事として、「即興型英語ディベート大会」を
実施することとなった。今後は、授業の中でこの取組みをより
計画的に展開するとともに、新学習指導要領（新科目「論理・表現
Ⅰ～Ⅲ」等）への応用についても検討していきたい。

神奈川県立
厚木高等学校 校長
中垣　匡

メッセージ

生徒たちがＰＤＡのディベート大会に参加し、示されたテーマに
ついて自分たちの考えを英語で伝えるという経験を積むことは、
生徒たちの英語力の向上のみならず、正確な分析のもとに自分の
考えを構築し、それを相手に伝える力の向上につながっています。
これからの高校教育において、英語コミュニケーション能力の
育成はますます重要になっていくことを考えると、会話や
プレゼンテーションの他に、ディベートという要素を加えることが
できありがたく思います。生徒たちに与えられた時間は短いですが、
ＰＯＩを受けて、それに返せるだけの余裕と力をつけて欲しいと
思っています。

神奈川県立
横浜翠嵐高等学校 校長
佐藤　到

メッセージ

第４回ＰＤＡ高校生即興型英語ディベート全国大会出場
おめでとうございます。今、世界は国際化・情報化の進展とともに、
ますます多様化、複雑化しています。私は、これからの時代に
生きるみなさんに一番求められている力は「自分の考えを、
与えられた時間で、わかりやすく的確に伝える力」だと思います。
このディベート大会は、身近な疑問や社会の課題について
全国の高校生と、いや世界の高校生と話し合える絶好の機会です。
これまで学校や都道府県交流大会で練習してきた力を遺憾なく
発揮してください。ディベートのテーマは、
あなたのまわりにあります。

私立
湘南白百合学園高等学校 校長
谷口　貞女

メッセージ

本校では即興型英語ディベートに魅せられた生徒の活動の
輪から始まり、ディベート授業の導入を開始しました。
時事問題をテーマとした論題の奥深さや論理を追求する生徒たちは、
ディベートを通して自分の考えを見直し、相手の主張も加味して
自身の論にフィードバックする姿勢で学びを深めています。
さらに、チームメンバーが一丸となることで、協調性とともに
コミュニケーション能力も身に付く貴重な体験をしています。
今年もまた、湘南白百合チームは持ち合わせる能力をフル活用する
醍醐味を感じるディベートを楽しみに、全国大会に参加します。

神奈川県立
横須賀高等学校 校長
九石　美智穂

メッセージ

次代を担う高校生には、学びを自分でデザインし
学び続けていってほしいと考えます。課題を認識し、解決方法や
新たな価値を協働的に見出すためには、
知識を獲得しながら疑問をもち批判的思考をすることと、
論理構築をして伝える力そして質問力・応答力が重要で、
これらの力はどの分野に進んだとしても大きな力になります。
即興型英語ディベートは、論題が与えられた後の準備時間が
15分～20分間と短いため授業で活用しやすく、等身大の知識が
試され、論理構成力、チームワークも必要となります。日常における
情報や知識への対峙の仕方も自ずと変わってくると思います。
授業への導入では、初めての生徒が参加しやすい
工夫も必要になるでしょう。

福井県立
藤島高等学校 校長
田中　幸治

メッセージ

第４回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会の開催、
まことにおめでとうございます。本校ではこれまで高度な
英語力の育成のため、論理的思考力や表現力だけでなく、
即興性と社会性を要求される即興型ディベートを授業で積極的に
導入してまいりました。結果として多くの生徒が英語力を飛躍させ、
クラスは活気に満ちています。同時に福井県教育委員会の
後援のもと、5回にわたる研修会の開催を通じ、県大会には
県内約６割の学校、200名を超える生徒の参加を得、英語
ディベートの輪が全県的に確実に広がりつつあります。本大会が
互いに切磋琢磨し高めあう大会となることを願っております。

長野県
松本県ケ丘高等学校 校長
杉村　修一

メッセージ

第４回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会に出場が叶い
ましたことをとてもうれしく栄誉に思っております。即興という
ことで普段から時事問題に対し常に考え、意見交換をして自らの
考えを深めていくという学びがどう生かされるか楽しみです。
本校OBの映画監督であり、東京オリンピックの開会式等の
総合プロデューサーでもある山崎貴監督は「本当にやりたいことが
ある人は、自分に「足りないこと」を自覚して努力することが成長に
つながり、夢は叶えられる。」と語っています。多くの仲間と研鑽し
合うディベートを通じて「たくさんの知見」と「悶々とした渇望感」も
得て来て欲しいと願っています。

長野県
長野高等学校 校長
原　良通

メッセージ

本校では、英語の発信力をつけるため、課題研究や
プレゼンテーション、海外との交流に活発に取り組んでいます。
その一環として全員がPDA即興型英語ディベートを実践し、
英語力向上を図っています。このディベートは、形式が分かりやすく
初めてでも取り組みやすく作られており、論理的思考力を
磨くことに有効です。さらに、広い知識が必要であることに気づき、
日頃の学習への興味関心が深められる効果があります。
授業形式で取り組み、気づいてみると着実に英語4技能が身に
付いている、そんなプログラムがこのPDA即興型英語ディベート
ではないでしょうか。新学習指導要領の方向性を見据えて、
積極的に取り組んでいきたいものです。

長野県
上田染谷丘高等学校 校長
井村　敏明

メッセージ

即興型英語ディベートは、「従来のディベート形式とは異なり、
一般の授業においてそのまま導入可能なコンセプト」ということ
ですが、本校の英語の授業でも実施されており参観しました。
その様子から、聴くこと話すことの力を上げていくには、
様々な事柄に対する知識が必要であることに改めて気づかされ
ました。即興型のディベートは、準備が簡略なだけに、
普段から他教科や色々なジャンルの知識を身につける姿勢の差が
如実に表れるので、自分を見直すとても良い機会になるのでは
ないでしょうか。グローバル化の重要なツール開発の場として、
これからも協会や参加者の皆さんの活躍をお祈りします。

長野県
松本深志高等学校 校長
今井　義明

メッセージ

現実にある問いや課題については、唯一の正解があることは
少なく、今考えられる最善の対応、あるいは多くの人が納得できる
対応、最善解や納得解を探していくことが多いと思います。
そうした力を高校生の中に育てていくためには、
このようなディベート活動を通して、自分の持っている知識や
経験を総動員しながら、多様な意見を出し合い、最善解や
納得解を見つけていく経験を積み上げることが、一つの有効な
手段と考えます。また、英語の４技能育成の観点から、
さらには思考・判断・表現力の育成の観点からも効果的な
手法として機能するものと考えます。

静岡県立
静岡高等学校 校長
志村　剛和

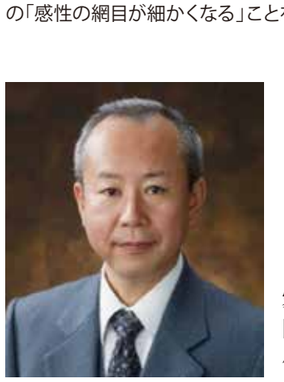
メッセージ

「感性の網目・メッシュを少し細かくすることができました」。
これは市主催の「高校生のキャリア形成事業」の成果報告会での
高校生の感想です。夏休みのインターンシップや
職業人インタビューを通して、自らの成長を感じています。
細かな網目には新たな気づきや発見が、引っ掛かります。
本校は今年からのＰＤＡへの参加です。5月の授業体験会には
28名が、6月の東海四県交流大会には10名が参加しました。
終了後、「緊張の中、他県生徒との交流は貴重な経験だった」
「自分の世界を広げたい」など、今後の学びに対する前向きな
感想が寄せられました。今回は、全国64校から生徒が集まります。
積極的な取組を通して同年代の生徒との交流が図られ、一人一人
の「感性の網目が細かくなる」ことを期待しています。

岐阜県立
岐阜高等学校 校長
折戸　敏仁

メッセージ

情報化やグローバル化が急速に進展している現代社会において、
外国語によるコミュニケーション能力は今後、様々な場面で
必要となってくることでしょう。現在、本校ではグローバルな
視野を持って活躍できるリーダーの養成を目指して各種の取組を
行っています。この即興型英語ディベートは、本校としては今年度
初めての取組でしたが、交流大会においては、生徒が目を輝かせ、
全力でチャレンジする姿を大変頼もしく感じていました。
今後、こうした手法が積極的に授業の中に位置づけられ、
論理的に考え、話すことにより生徒のコミュニケーション能力が
一層高まっていくことを期待しています。



愛知県立
岡崎高等学校 校長
竹下　裕隆

メッセージ

本校では学校設定科目「探究AKC」において、論理的思考力、
表現力、コミュニケーション能力等、探究的な学びの基礎力を
育成しており、1年生のうちにすべての生徒が日本語のディベート
を経験しています。また、３年生では生徒各自が探究した内容を
英語で発表する機会があり、生徒たちが自ら考えたことを英語で
表現するトレーニングも行っています。そこで、英語による発表の
経験を積ませるよい機会として、生徒たちに即興型英語ディベート
を紹介しています。本校は、愛知県から1校だけ参加させて
いただきますが、今大会が盛大に行われますことを心よりお祝い
申しあげますとともに、PDAの活動が徐々に広がっていくことを
祈念しています。

滋賀県立
膳所高等学校 校長
小島　秀樹

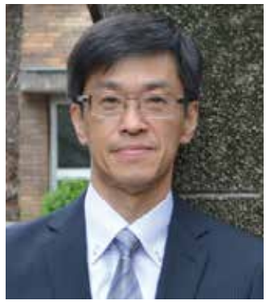
メッセージ

このたび、本校生徒が、第４回ＰＤＡ高校生即興型英語ディベート
全国大会に出場する機会を得て、大変喜ばしく思います。
即興型ディベートは、その場で与えられたテーマについて、
限られた時間の中で、自分たちの持てる力で論理を組み立てていく
という難しさがありますが、反面、これからの予測不可能な時代を
生きる皆さんにとって、是非身に着けておくべき力を養う有効な
取り組みだと、私は思います。全国大会では、日本各地から
選ばれた学校の皆さんが一堂に集い、それぞれの技能を競う
ことになりますが、参加生徒の皆さんが、この全国大会で貴重な
経験を積み、将来グローバルに活躍してくれることを期待します。

京都府立
嵯峨野高等学校 校長
小川　雅史

メッセージ

グローバルとは単に英語が話せることのみならず、「どこでも
寝られて、何でも食べられて、誰とでもコミュニケーションが
とれること」と言われるように、主体的な生き方こそがグローバルの
根幹です。そのために本校でもそれぞれの教科における授業で
生徒の主体的な学びに取り組んでいるところですが、
英語科においても英語で自分の考えを述べて、
表現できることができるようになるための授業法の一つとして
パーラメントディベートを活用しています。



京都府立
鳥羽高等学校 校長
山埜　茂彦

メッセージ

本校は戦略的・批判的思考力を身につけることを目指し、
専門学科グローバル科の授業にディベートを導入しています。
校内ディベート大会や、交流会で海外の大学生とディベートしたり、
ディベート学習を進めています。ディベートでは、相手の主張を
聞いて理解し、その場で反論することや、相手の質問に素早く答える
などの、まさに今のグローバル社会が求められている実践的な
英語のコミュニケーション能力を育む取り組みであると思います。
本校生徒がその力を身につけて、様々な場面でグローバル・
リーダーとして活躍できるように、
今後もディベートをさらに進めてまいります。

京都市立
堀川高等学校 校長
谷内　秀一

メッセージ

第４回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会の開催を心よりお喜び申し上げます。全国から集まった高校生と英語で交流し議論を深めることで、生徒たちが大きく成長してくれることを期待しています。本校では数年前より有志生徒と教員が中心となり、即興型ディベートに取り組んでおります。
生徒たちは英語運用能力に加え、他者の意見を受けとり、考え，判断し，表現する力を向上させてきました。
今回、高い目標の達成に向けて培ってきた力を存分に発揮し、本気の戦いを通じて友情を芽吹かせてほしいと思っております。
Aim higher, Horikawa students!

大阪教育大学附属
高等学校平野校舎 副校長
堀川　理介

メッセージ

本校では、2014年度から、中川智皓先生のご指導のもと、2年生全員を対象に英語科授業の中で即興型英語ディベートを実施しています。初心者であっても取り組みやすい教材と授業内で完結するプログラムにより、年度当初は戸惑いながら取り組んでいた生徒が、授業を重ねるごとに楽しみながらも堂々と自分の意見を述べるようになる姿を毎年頼もしく見させていただいています。即興型英語ディベートを通して、大阪府内のいくつもの高校と交流する機会も広がりました。将来の英語の授業の一つのあり方として、大阪教育大学の学生が授業見学に来校することも多くなり、あらためてこの授業の可能性を感じております。

大阪府立
北野高等学校 校長
恩知　忠司

メッセージ

即興型英語ディベートは「１粒で３度おいしい」取組だと感じています。即興、英語、ディベート、どれ一つとっても難関ですが、頭脳をフル回転させるにこれ以上のものはなく、常に刺激を求めている北野生にはピッタリです。昨年の全国大会で北野高校は２勝２敗の成績でした。本格的に取り組み始めて半年、確かな手応えを感じると同時に、「上には上がいる」ことを実感できる大会でした。今年は校内セレクションで２年生２名、１年生１名の代表を決定し、昨年以上のお土産を持って帰りたいと意気込んでいます。全国の皆さんとの真剣勝負を楽しみにしています！見せるぞ！六稜魂！

大阪府立
豊中高等学校 校長
平野　裕一

メッセージ

未来学者のアルビン・トフラー氏は、「ハイテクノロジー（先端技術）が進めば進むほど、ハイタッチ(人間同士の触れ合い)が求められる。」と指摘しました。我が国は、グローバルに情報が行きかうネット社会の一員であり、さらに今後ＡＩ技術が発展すると、逆説的ですが、人間同士のリアルなコミュニケーションが求められると考えられます。高校生にも英語でのオーラル・コミュニケーションの力が求められることは言うまでもありません。即興型英語ディベートは、英語でのコミュニケーション力を育成する効果的な手法のひとつです。本校生がこのディベートに取組むようすを見ていると、回を重ねるごとに自信を持って英語を聞き・話す力が身につくことがわかります。本校では、ディベート等を活用し、英語のコミュニケーションを通じて、グローバル社会で活躍できる人づくりに向けた教育活動を進めているところです。

神戸女学院
高等学部 部長
林　真理子

メッセージ

第4回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会の開催、おめでとうございます。グローバル社会に生きる高校生には、喧嘩ではなく議論、対立ではなく共感によって問題を解決する力が必須です。批判的思考力を深め、的確な判断を下す力を身に着けるためには、英語力や自分の意見を主張する力だけではなく、多様な意見に真摯に耳を傾け、受容と包容の姿勢で問題を解決する力が必須であると思います。英語で議論することにより、主体的積極的な学びを深化する貴重な機会を本学の生徒達に与えていただき、感謝いたします。大会の成功と関係者、参加者皆様の益々のご発展を祈念いたします。

神戸大学附属
中等教育学校 校長
藤田　裕嗣

メッセージ

神戸大学附属中等教育学校は，11学部15研究科を擁する神戸大学の附属学校として，大学の教育理念(グローバルエクセレンスの実現)にもとづく「グローバルキャリア人」の育成をめざした教育を推進しています。ユネスコスクールに認定され、さらに2015年度にはＳＧH(スーパーグローバルハイスクール)にも指定されました。本校ではグローバルアクションプログラムとして位置づけて、さらなる発展を企図しています。この度、年末に開催される第4回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会2018に5年生（高校2年生）3名が参加できることになりました。
成績に一喜一憂することなく、全国の高校生と交流する貴重な体験を通じ、今後の糧にしてもらいたいと願っています。

奈良県立
奈良高等学校 校長
安井　孝至

メッセージ

本校（SSH指定校）の教育目標の中に、「科学技術系グローバル-リーダーの育成」を掲げています。私は、グローバルリーダーとは、自分の意見に理由と責任をもつこと、また、人に対する敬意を忘れず他者と協調して仕事をすることができる人であると考えております。パーラメンタリーディベートは、そういった人材育成に寄与できる最適な手法であることから、部活動のみならず、英語表現の授業でも、論理的に自分の考えを構築し、相手に伝えていく発表交流の場として、一部取り入れています。
今後は、英語科だけではなく、他教科とも連携し、教職員全体の共通理解の醸成を図りたいと考えております。

鳥取県立
鳥取東高等学校 校長
尾室　真郷

メッセージ

今年度も参加させていただくことができ、大変うれしく思います。
本校では、英語４技能をバランスよく育成する取り組みを学校をあげて実施しており、そのうちの1つが英語ディベートであります。
英語ディベートでは英語４技能の育成のみならず、論理的思考力・批判的思考力も養うことができますが、特に即興型英語ディベートでは即興で英語で述べる力、聞く人を惹きつけるスピーチ中の態度面等も鍛えてくれるものであると解釈しています。
次期学習指導要領にも掲げられている新科目「論理・表現」において、非常に効果的な活動でありますので、今後もますます全国の高校生が、授業あるいは部活動として取り組んでくれることを祈っています。

私立
岡山高等学校 校長
鷹家　秀史

メッセージ

即興型英語ディベートを中心としたＰＤＡのプログラムは、世界で活用されているパーラメンタリーディベートをベースにしたプログラムで、限られた時間で学校現場に導入・実践が可能だと考えています。本校でもコミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱの授業でパーラメンタリーディベートを導入しています。
テーマも社会・政治・倫理・環境・国際問題など多岐にわたり、グローバル・リーダーに必要な素養を身に付ける基礎を養うことができます。結果として、「英語での発信力」「論理的思考力」「幅広い知識」「プレゼンテーション力」「コミュニケーション力」の５つの力が鍛えられると思います。

私立
東大寺学園高校 校長
森　宏志

メッセージ

世界はこれまでにないくらい状況が変化しており、様々な分野で色々な物事が進化し続けています。
急激な変化を見せる世界情勢の中で、日本の英語教育が世界に遅れを取らず、若者たちの語学力や教養を高めるために不可欠な学習手段が即興型英語ディベートです。従来の知識・理解中心型の一斉授業に固執することなく、様々な本物の英語による良質なインプットからアウトプットに繋げていく有機的な教員と生徒たち、そして生徒たち同士が関わり合える双方向型の新しいタイプの授業の早急な実現と普及が望まれ、そのためにもディスカッションやディベートを前提とした授業構築が前提に掲げられるべきだと考えます。その結果、次期学習指導要領を見据えた「主体的・対話的で深い学び」の実現も可能となるのです。PDAの全国大会には日頃ディベートに真摯に取り組んでおられる高校生が参加され、凌ぎを削りながら高め合うレベルの高いディベートが繰り広げられます。そこで切磋琢磨し得た知見を学校に持ち帰り、学友と共有することで日本の英語教育の底上げが成されることに大きな希望を見出しております。今年度も熱戦が繰り広げられることを心より期待しております。

私立
梅光学院高等学校 校長
樋口　紀子

メッセージ

「Beyond the Borders」
今の子どもたちに求められる力は、文化や言語の壁を越え知らない地域で、自分とは異なる人々との出会いや多くの経験を通じて自分を成長させる「国境を越える力」、自らの限界を設けずに、一歩前に踏み出す「自分の限界を超える力」、と私たちは考えます。それは、これからの時代を生き抜く力そのものです。
「強くしなやかな精神と、新しい時代を切り拓く能力を、他者のために用いることのできる人間を育てる」という建学の理念を掲げる私たち梅光学院は、これからの時代をたくましく生き抜き、社会に価値をもたらす人材を育成すべく日々教育活動に取り組んでいます。

山口県立
山口高等学校 校長
栗林　正和

メッセージ

昨年度、本校を協力校として、「PDA山口県高等学校即興型英語ディベート交流大会」が産声をあげました。第２回となる今年度は、本校も主催に加わり６校４１名の生徒参加のもと盛況に開催されました。授業においても、１・２年生を中心に計画的かつ組織的に取り組んでいるところです。即興型英語ディベートでは、生徒たちが対戦相手やチームメイトの英語に必死に耳を傾けるとともに、伝わる英語を模索しながら懸命に話す姿が見られ、効果的に言語習得を促進するインプットとアウトプットの絶好の機会となっています。
今後とも、取組を一層推進したいと考えています。

福岡県立
城南高等学校 校長
和田　美千代

メッセージ

即興型英語ディベートは、本校の教育活動の重要な柱の一つです。「授業でやる」ところ、つまり教育課程に組みこんでいるところがポイントです。授業の一環だから、その影響・成果は全生徒に現れます。生徒たちが論理的に意見を述べるようになったと実感しています。ＰＤＡの方々にも本校の英語科の職員にも感謝しています。

熊本県立
八代高等学校 校長
和久田　恭生

メッセージ

八代高等学校・中学校はグローバルリーダーとなる人材の育成を目標に、世界で活躍するために求められる以下のような資質の涵養を目指しています。
●グローバル・マインド
・柔軟な思考で問題の本質を見抜き、臨機応変に対応する俯瞰力
・多様な価値観を理解し尊重する感性・他者と協力し、ものごとを為し遂げる協働性
・主体的に新しい価値を創成し、社会に貢献していく実践力
●グローバル・スキル
・課題設定解決力・コミュニケーション力・英語力
・メディアリテラシー
即興型英語ディベートでは、このような力を身に付けることが可能であると考えています。生徒たちが即興型英語ディベートを通じて、英語力の向上のみならず、国際人としての基本的素養を身に付けることができると確信しています。

宮崎県立
宮崎北高等学校 校長
川越　良一

メッセージ

学校における生徒の英語学習については、グローバル時代において、聞いたり・読んだりしたことに基づいて、話したり書いたりする統合型の言語活動が十分でないと言われています。そのような中、即興型ディベートは、授業形態の中に「学力の三要素」（知識・技能の習得、思考・判断・表現、学びに向かう力等）が存在し、生徒が主体的また協働的に考え、英語で伝え合うことを目標にした学習であることから、本校は各学年ごと授業の一環として導入しました。生徒の英語での発信に対する興味・関心は、思った以上大きく、これを契機に、生徒にとって英語の４技能が車の４輪のようにバランス良く作動することを期待しています。

私立
創価高等学校 校長
塩田　誠一郎

メッセージ

即興型英語ディベートには、今までの授業では伸ばすことが難しい力をつけさせてくれる大きな魅力があると思っています。その力とは、論理的な思考力、協同する力、そして、英語を読む、聞く、話す、書くなどを含めた英語で何かをする力など、これからの時代に求められている力です。こうした意義ある即興型英語ディベートに本校の先生方と生徒たちが挑戦してくれていることを、心から嬉しく思っています。この大会への参加を通して、楽しみながら大いに力をつけてくれることを願っております。

鹿児島
情報高等学校 校長
新納　武彦

メッセージ

今回の大会では、日頃授業で習得している「生きる力」を思いっきり発揮してください。ニュージーランド留学やＰＢＬ（problem based learning）で身につけた英語力と知識を評価してもらう絶好の機会です。勿論、上位入賞を目指して欲しいと思いますが、結果を次のPDCAサイクルに活かすことが大会出場の意義を高めることになると考えます。また、全国から参加している高校生の実力を肌で感じて欲しいと思います。そのことで、次の目標設定が顕在化してくることでしょう。加えて、全国各地の高校生とのネットワークの広がりも期待します。
いづれにしても「きばれよ、チェスト！」。

沖縄県立
球陽高等学校 校長
冨里（ふさと）　一公（かずひろ）

メッセージ

初出場の沖縄県立球陽高等学校です。本校は今年で創立30周年を迎える理数科と国際英語科を設置する高校です。
平成25年度からは文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、本年度から２期目の研究開発に生徒・職員が日々取り組んでいるところであります。そのような節目の年にPDA高校生即興型英語ディベート全国大会2018に出場できることは大変光栄であり、生徒も職員も出場か決定した瞬間から興奮状態です。今回は我が球陽高等学校の元気印２年生の中から精鋭を選りすぐって参戦させます。全国大会の場で日頃のSSH取組みで培った論理的思考力を駆使して全国の高校生を相手に「球陽旋風」を巻き起こせ！